

2024 年度 春期韓国語短期研修

プログラム区分	語学研修
主幹部署	言語教育開発センターPLP 部門
研修先国・地域名	韓国・釜山
研修先	釜山外国語大学校
プログラム概要	<p>本学の協定校である釜山外国語大学校では、韓国語専門教育機関として設置された韓国語文化教育院で、毎年「韓国語短期研修」が開催されています。日本を含む世界各国の大学・高校から多くの参加者が募り、韓国人教員や国際交流部の職員が一体となり、実践的な韓国語授業を展開しています。2024 年度は春期に開催される韓国語短期研修（2025 年 2 月～3 月・二週間程度）への参加を予定しています。リスニング力、会話力、解読力、作文力の基本技能はもちろんのこと、国際社会で実践的に用いられる生きた韓国語を体系的に習得することができます。また、韓国語授業の他にも、韓国料理や K-pop ダンスなど、韓国文化を楽しみながら多角的に学べる文化授業があり、韓国人学生との交流会では積極的に韓国語を使用することで、研修期間での成果を感じることができるでしょう。研修参加の募集条件は、PLP 韓国語科目の単位を 6 単位以上修得していること、または修得見込みであることです。PLP 韓国語授業で学んできた韓国語を現地で実践的・多角的に学びんでみてください。皆さんの可能性が広がるはずです。</p>
日程	出発予定時期：2025 年 2 月中旬 期間：2 週間
単位認定	海外研修 I B（2 単位）
他学科生の受入れ	可 受入れ可の他学科：全学科
語学研修の有無	有
語学研修以外の内容	有
問い合わせ先	言語教育開発センターPLP 部門
その他	全学の PLP 韓国語履修者が集まり、学科・学年を越えた交流も楽しさの一つです。また現地では他大学の韓国語学習者との繋がりができて、全国から集まる日本人学生と韓国人学生が一体となります。日韓大学生の国際交流の場から友達の輪を広げましょう。

体験記



2024 年度 春期韓国語短期研修に参加して

氏名：堤琴音（2023 年度参加）

本文：

今回の釜山研修では、会話をする機会や現地で実際に暮らすことで文化を実際に体感することを通し、会話力の向上や韓国文化の理解をより深めることを目的として参加しました。

まず、釜山外国語大学のキャンパスは、釜山の中でも少し山中にあり、現地の方々のローカルな雰囲気を感じることが出来る地域だと感じました。しかし、山中ではあるものの、釜山の繁華街である西面駅には、キャンパスからバスと地下鉄で 30 分程度で行くことができ、とても良い立地であると感じました。個人的には、釜山はソウルに比べて地元感を感じることができ、人と人とのコミュニケーションをより大切にしていると感じました。過去に個人旅行でソウルに訪れた際と比較しても、街中を歩いていて話しかけられたり、ショッピングをしている際に会話が弾んだり、会話をする場面が多いように感じました。この面が会話力を向上させるのに繋がったと感じます。

授業では、上級のクラスに参加しましたが、韓国の食文化や地域の特徴、旅行、造語など様々なテーマに沿って内容に関する単語を学び、長文を読んでそこから感じたことや日本と違うことを意見交換するなどの構成でした。また各テーマの内容に沿った制作活動などがありました。例を挙げると、地域の特徴では自身の故郷を韓国語で紹介する発表、旅行では韓国や日本から好きな地域を選んで自身で旅行のパッケージを組んで他の学生に発表するというものがありました。これらの活動は、毎回基本二人のペアになって行っていたので、様々なクラスメイトとより仲を深める良い機会でもありました。

自由時間の個人活動では、繁華街である西面や 15 分程度で行くことができる釜山大学前の学生通りに行って過ごしていました。授業終わりでも十分に行くことが出来る距離で、ショッピングやカフェ、食事を楽しんでいました。3 週間で様々な場所に訪れたかったので、日本にいる時よりも頻繁に外出していました。そのおかげか、日常会話をする機会が沢山あったので有意義な時間でした。

生活面では、寮のバスルームに少し苦戦しました。韓国ではよくある形式なのですが、トイレとシャワーが同じ空間にあり、シャワーのスペースが少し小さいので、毎回トイレまでぬれてしまうので、少し気をつけてシャワーを浴びる必要がありました。苦戦はしましたが、少し変わった面白い体験だと感じました。寮で面白かったことは地下のコンビニに行くことです。日本にない 1 + 1 の制度や多種類のカップラーメンなどを試すのが楽しかったです。現地のスタッフの方がサポートをしてくださったおかげで生活面は特に心配することなく過ごせたのでとても助かりました。

研修に参加して、授業や体験、自由行動や寮での生活を通し、全体的に会話をする機会が多く、会話力、リスニングとスピーキングを特に伸ばすことができたと感じます。また、自分から積極的に話したり、言語レベルを心配して言葉にすることを躊躇しては会話力が伸びないと実感する良い経験でもあったと感じます。

体験記

2024 年度 春期韓国語短期研修に参加して

氏名：伊藤千紘（2023 年度参加）

本文：

私は韓国釜山に存在する釜山外国語大学に 3 週間の短期留学をしました。釜山での生活は自身の語学的な成長だけでなく、自身に新しい価値観と目標を与えてくれました。

まず、自身の学びとその環境の部分を振り返ります。場所は釜山広域市南山の釜山外国語大学にて学びました。山に所在し、街の駅から大変な坂道を 30 分ほど登った場所にあります。景観もよく広大な学舎の 1 棟を留学生の学び舎とし、約 200 名の学生が 16 のクラスに分けられ学びました。授業時間は平日の午前 9 時より一時間の昼食休憩を経て午後 4 時に終了です。各 50 分の授業で、すべて韓国語で行われます。生徒は日本全国から集まった高校生・大学生と 20 名ほどのカザフスタンの学生と行いました。事前にレベル分けされたクラスは 3 段階の初級・中級・上級で自身は中級のクラスで学習しました。中級クラスでは読み書きは勿論とし、文法レベルとしては名古屋外国語大学の韓国語講義の中級より少し上の程度でした。しかし扱う単語や文法は日常会話で頻繁に使用されるもので大変実用的な授業内容でした。具体的には衣類などの買い物や食事の誘いでシチュレーションをレクリエーションの形でペアとともに行いました。これらの学習を全て韓国語で行うことでより生きた韓国語、話す韓国語を学べたと思います。

次に生活環境についてです。宿舎は大学敷地内に存在する学生寮で、食事も寮内で行えます。またコンビニから銀行、ジムもあり寮内だけでも充実した生活が行えます。また郵便局やネイルサロン、インセンネッコ(日本というアプリ)も学校敷地内に存在しました。寮内のランドリーにて自身の洗濯物を洗うことも可能です。部屋の風通しがあまりよくないので乾燥機を使用することをお勧めします。我々留学生は基本的に一つの部屋を二人で共有し、生活を行います。洗面所はトイレ、シャワーワンルームで湯船やカーテンはなく、シャワー後の洗面所は水浸しでした。この短期留学での唯一の残念な部分です。門限は全寮生共通の午前 2 時まで、午前 4 時より外出が可能である程度の自由がありました。人生において一人暮らしの経験がなかったので恵まれた環境で一人暮らしの練習ができたように感じており、個人的には人として成長できた部分だと思っています。

そして次には自身の休日や友人との思い出、印象的だったエピソードについて触れたいと思います。滞在していて感銘を受けたことは大きく 2 つあります。まず、現地には留学生を迎えてくれた学生たちがいました。自身はその学生と積極的に関わることを意識しました。そして感銘をうけたのは韓国の方たちは想像以上に情に厚く、仲良くなったら本当に親身に親しくなったことです。最初は歓迎会の学生のみとの交流でしたがその友人と親しくなり学外の友人もできました。留学プログラムに含まれていたロッテワールドにも現地で合流し一緒に行動したり、休日を一緒に過ごしたり、平日にも夜飲みに行ったりと彼らのおかげで大変順風満帆な生活を行えました。

早朝に起きて食べに行ったスデクッパや海雲台の夜景を車で見に行けた留学生は少ないと思います。また海雲台の夜景をスクーターの後ろに乗せてもらって見たのはとても感動的でした。海雲台の夜は若者が多く、賑わいがありました。高級車が多く駐車していて、車好きが集まりやすい傾向があると聞きました。友人だけでなく、街で出会った方たちもよい人が多かったです。言葉のわずかな違いですが、釜山の方々はひとえに“優しい”ではなく、“恩情”がある方々であると感じました。そして滞在して感じた日本との違いが2つあります。二つはまだ洋食店が少ないと感じたことです。西面の百貨店には少数ながら存在していましたが、街路時の方や釜山大駅の街には韓国料理店が殆どであった印象です。外国料理としては中華料理(マラタン)や日本料理店が比較的あった印象です。西面駅から一駅の田浦駅の方には市場があり、高齢者も多く今の日本では見ることが出来ないであろう活気を見ることが出来、感動しました。個人的に自由時間の友人との思い出は韓国の文化や言語をより深く学べた大変有意義な機会でした。

さいごにこの留学を通しての学びと感想を報告します。学びとして自身がえられたものは韓国語の実力と自身の夢についてです。留学は3週間との短期でしたが韓国語の実力は2倍ほどに考えております。元々が初級の挨拶程度だったのですが、今では自身のアルバイト先に訪れた韓国人の観光客を韓国語で接客を行えるほど自身がつきました。勿論、まだまだ学ぶことは多いですので、更にクオリティの高い韓国語での接客を行えるようになりたいと考えています。また、自身は留学前、大学4回生ということもあり、目の前の就職活動やアルバイトをこなすことが精一杯で夢や目標といった新しい思考が少なくなっていました。しかし、この自身の想像を超えた経験で自身がまだまだ若者で知らないことは多く存在し、学べる存在であること、自身の想像しえない楽しい出来事はこれからあるのだと前向きな意識を持つようになることが出来ました。この留学プログラムは人によって過ごした感覚は様々だと思います。勉強ほどほどの観光メインの感覚、勉強メインの留学の感覚、初対面のひとと絆を深めた合宿のような感覚。自身が感じたのは住んでいる感覚でした。3週間の短期ではありましたが、この感覚がえられたのは地元の方々と交流し過ごしたおかげだと考えています。



体験記

2024 年度 春期韓国語短期研修に参加して

氏名：吉田まりあ（2023 年度参加）

本文：

釜山外国語大学は非常に施設の整った大きなキャンパスでした。クラスには他県から研修に参加した学生や他国から学びに来ている学生もいました。そのなかで私が驚いたのは私たちよりも年下の高校生も同じように韓国語を学びに来ていたということです。このことから刺激をもらって切磋琢磨韓国語の学習に取り組みました。寮では同じ学校の学生と2人部屋でした。彼女とはこの研修で出会いましたが、この期間を通してとても仲良くなり日本に帰ってきてからも連絡を取るほどの大切な友達を作ることが出来ました。学校の授業内では座学だけではなくグループでチラシを作ったり韓国文化を学ぶ為に伝統的なゲームをしたりとクラスメイトと交流をしながら韓国語の学習に取り組むことが出来ました。クラスメイトはみんな韓国好きなので授業はとても賑やかで楽しく韓国語を学ぶことが出来ました。クラスメイトや釜山外国語大学の学生である韓国人の先輩方と授業を通してとても仲良くなり韓国料理をみんなで食べに行ったり、夜にお菓子パーティーをして韓国をより好きになりました。さらにクルーズツアーや韓国で有名な遊園地である「ロッテワールド」、また慶州旅行を通して個人ではいけない遠い場所まで行って学校以外では寮で同じ部屋だった友達と毎日学校終わりに予定を立ててできるだけ外出し、生の韓国語を学ぶようにしました。調べれば分かることでも目的地までの道やおすすめのご飯屋さんなど教えて貰えるようなことは自分たちから韓国人の方に話しかけてコミュニケーションをとることを意識していました。大学で複言語として学習している時は会話の練習をする機会はあまり無かったのですがこの研修で自分自身が思っている以上に韓国語を理解出来たり会話することが出来たことに気づき、自分の韓国語の能力に自信を持つことができるようになりました。学校の最終日には成績や修了証が配られ、その成績や先生からの素敵なメッセージからこれからも引き続き韓国語の学習を一生懸命続けていきたいと強く思えました。韓国語を学ぶだけでなく様々な人と出会い、成長できた約20日間でした！





体験記

2024 年度 春期韓国語短期研修に参加して

氏名：小山温葉（2023 年度参加）

本文：

私はこの三週間の韓国研修で様々な経験をし、たくさんのものでることができた。私にとってこの夏の韓国の研修がコロナ明けの初めての海外渡航だった。コロナで海外渡航ができなくなる前は姉が韓国に留学していたこともあり何度か韓国に行くことはあった。その時は姉のおかげで言語で困ることはなく楽しい旅行を送ることができていた。しかし、今回の韓国研修で言語が通じないことの大変さを身をもって経験することができた。授業では全てが韓国語で行われると聞いて授業を受ける前は不安でいっぱいだったが、担当の先生方がとても優しくわかる単語だけで授業を進めてくれたので授業に対しての不安はほとんどない状態で受けられた。全て韓国語の授業だったが、どんなときにその文法が使われよう使うのかを先生たちが教えてくださるので、日本で受ける韓国語の授業よりもはるかに内容が頭に入りやすいと感じた。また、少人数で受ける授業だったので生徒一人一人が先生とコミュニケーションが取れる環境は自分が今持っている韓国語の能力を発揮することができたので韓国語を話すには良い環境だったし、先生方も上手にできたらちゃんと褒めてくれるので韓国語学習のモチベーションにも繋がった。三週間の釜山外国語大学の寮での生活は、初めて会う人と同じ部屋で生活したり、シャワー室がトイレと洗面所と一緒にあったり、毎回一食には辛い食べ物がついている学食だったり、洗濯するのに30分は洗濯機の前で待っていないといけなかったりと、自分にとっては慣れないものばかりだったが、この生活のおかげで寮で暮らす学生たちの気持ちを身をもって知ることができた。一人暮らしをしている私からしたら、この韓国での寮の暮らしは常に誰かと一緒に時間を過ごすことができ、たくさんの思い出が作れたのでとても濃い時間だった。特に名前も顔も知らない状態で同じ部屋でルームメイトと暮らすことは、暮らし環境や習慣が違うので最初の方はとても緊張した。しかしお互いが配慮し合うことで喧嘩することなく最後まで良い雰囲気でも生活することができた。部屋に必要なものを用意があったり、相手の気持ちを汲み取って行動することが他人を理解することなんだと気づくことができた。また、韓国の学生と実際に交流する機会は私のなかでもとても刺激的なものだった。初めは自分が韓国語を聞き取るどころか話すこともままならない状態なので韓国の学生と交流することにとっても不安を感じていたが、同じグループになった先輩方が教えてくださったり、韓国の学生が優しい人で、私が話す韓国語を真剣に聞いてくれたので楽しい時間を過ごすことができた。それに韓国の学生と時間を共に過ごすにつれて言語が通じない学生と交流することに不安を持っていたのは私だけではなく韓国の学生もそうであったと知って、言語は違っても感じることや思うことは同じなんだと気づくことができた。現地の学生が連れて行ってくれた場所や紹介してくれた食べ物は全部新鮮で忘れられない思い出になった。この研修を通して韓国の文化や人に触れることで、もともと好きだった韓国がより好きになったしもっと韓国語が上手になりたいと思った。